

「皮膚の病気になぜ梅毒が？」と、不思議に思われるかもしれませんね。梅毒は梅毒トレポネーマという菌が原因で起こり、性行為でうつる感染症です。まず皮膚に症状が出ます。

昔は非常に多くの患者さんがいました。1940年にペニシリンという薬が開発され、ほとんどみられなくなりました。しかしここ数年は、大都市を中心に全国で急速に増えています。インターネットなどを通じて出会った不特定の相手との性交渉、梅毒の流行国からの感染者の入国など、複数の要因が考えられます。

広島県でも2014年までは毎年10人程度であった

皮膚の病気あれこれ

岩崎泰政

11

梅毒



イラスト・霜野美香

性交渉で感染患者急増

器や口にしごりとえぐれた
傷ができます。股のリンパ
節が腫れることもあります。
傷は自然に治りますが、
菌が体内に潜み、パートナ
ーにうつす恐れがあります。

抗菌薬をきつちり飲むことで治せます。ただし気づきにくいため、治療の遅れや感染拡大につながる危険な病気です。皆さんとパートナーを守るためにも、正しい知識を持ち、コンドームを使うなど予防することが重要です。

新規患者数は昨年は138人で、3年間で10倍以上になりました。今年はそれを上回るペースです。男性は20～40代、女性は20代と若い世代に多いようです。梅毒はうつって3週間ほどで、感染者と接触した性

3カ月以上放置すると、菌は血液で全身に運ばれます。手のひらや足の裏に痛くもかゆくもない赤くカサカサしたぶつぶつと、全身にピンクの斑点ができ、それも数週間で消えます。数年たつと、皮膚や筋肉、骨にゴムのような腫瘍ができることがあります。脳や心臓に合併症を起こし、死に

心当たりがあれば、医療機関に相談し、検査を受けください。感染直後は陰性となるため、4週目以降に行きましょう。最近は最寄りの保健所や保健センタ一で、無料の相談や匿名検査が受けられようになります。

心当たりがあれば、医療機関に相談し、検査を受けください。感染直後は陰性となるため、4週目以降に行きましょう。最近は最寄りの保健所や保健センタ一で、無料の相談や匿名検査が受けられようになります。